



12 藤武清藏・立山助右衛門
《陶製文字嵌入屏風》

六曲一隻

明治二十三年（一八九〇）
木製、陶磁
九八・〇×二五八・〇
鹿兒島県 第二部第四類
三等妙技賞

本作は木製の支持体に陶製の文字をはめ込んだ六曲屏風である。陶製の文字は、白い土に細かい貫入が入る、薩摩焼のなかでも白薩摩と呼ばれる特徴を示すものである。明治期の薩摩焼は、色絵金彩による華やかな絵付けや緻密な細工物で評判を呼び、海外へ大量に輸出されていた。本作はそれら輸出向けの作品とは異なり、マイル風に薄く平滑に焼き上げただけで、一見すると、派手やかさは見られない。しかし、破笠細工などごく特殊な例をのぞき、焼成後の加工ができず、およそ象嵌に不適切な陶製品をあえて選んで作品化したのは、作者の矜持がうかがえる。また、木製の屏風本体も、裏面には龍や獅子、鳳凰などの浮彫を各面にほどこしている。受賞記録には「陶製文字嵌入柞板屏風」とあることから、薩摩特産のイスノキ材が使用されていると推測される。イスノキは家具や薩摩琵琶などの原料や、灰（柞灰）は磁器の釉薬としても用いられる。

もとの文字は、薩摩の書家、馬渡昌興（一七二九〜九二。通称大八。字は剛毅。）の書である。漢詩は、盛唐の詩人・王昌齡の「芙蓉樓送辛漸」である。出品者の藤武清藏、立山助右衛門は、どちらも薩摩焼の製作に直接的にたずさわった人物ではないとみられ、当時の商工関係の資料から、藤武は紙商、立山（助右衛門ではなく祐右衛門）は砂糖、石油、荒物商であったことが判明した。

〈漢詩翻刻〉

寒雨連江夜入吳

季明送客楚山孤

洛陽親友如相問

一片冰心在玉壺

右芙蓉樓送辛漸

維昔明餘寓己

丑季孟夏中旬

剛毅書「馬渡氏」剛毅之印

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

内国勸業博覧会 ― 明治美術の幕開け

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 57

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十四年四月二十一日発行

© 2012, The Museum of the Imperial Collections